

井上逸兵のしましまにしましま!

いのうえいっべい(社会言語学者)

トトロとTOTOROに見る日本とアメリカ ——メイやさつきたちはアメリカ人!?

アメリカで小学校の先生をしている男性と話をする機会があつた。たまたま映画の話になつて、日本のアニメ映画はとてもいい、特に『となりのトトロ』はすばらしいと言う。子供たちにもよくビデオを見せるらしいが、好評だそうだ。僕も「トトロ」は好きな映画の一つだつたので何だかうれしくなつた。そこで英語版を買って見ることにした。ほんと感心する。メイもさつきも英語をしゃべっている。当たり前だ。吹き替えなんだから。ところがしばらく見ていると、どうも変だと思うようになつてきた。たんに日本語が英語になつているというだけではない違和感がある。それぞれがオリジナルとは違つたキャラクターになつているような気がするのだ。もちろん映像は同じである。

これはおもしろいと思って、モニターとビデオデッキを二つずつ並べて日本語版と英語版を同時に見てみることにした(ヒマな人だとお思いかもしれないが、こういうことをするのも時には僕の仕事の一部である)。そうやって見ると、明らかにオリジナルではセリフも声もないところに英語版では声が入つてゐることがわかる。

これにはいくつかの理由があるだろう。一つは日本語や日本文化を知つてゐる人なら言わなくてもわかることをそつてない人は説明しなくてはいけないということだ。例えばネコバスの行き先表示が『七国山病院』と変わるところでは、当然アメリカ人はこの字をよめないので、ネコバスがしゃべつているような声で「Shichikokuyama Hospital」とセリフが入る。ネコバスの口は画面に入つていないから問題ない。日本の習慣についても同じような方法で説明的なセリフを入れるのである(説明をあきらめている箇所もある)。もう一つの理由は登場人物たちがアメリカ人から見て「自然な」、「よい人」であるようにセリフが入れられているということだろう。全般に「トトロ」の人物たちはアメリカ人から見て無口過ぎると吹き替えの制作者たちは考へたに違ひない。カン太もオリジナルではセリフのないところでしゃべつているし、お父さんもやけに豪快に笑う陽気なお父さんになつていて。メイやさつきの驚き方もオリジナルより大きめだ。感情を表に出すことが伝統的日本人のよう抑えられない。

言うなれば、みんな少し「アメリカ人っぽい」人になつてゐるのだ。そ



illustrated by MIYATA NAOMI

うさせることによつてアメリカ人たちは登場人物たちを「よい人」だと思う。「よい人」像は文化によつて違うのである。もちろん完全にアメリカ人になつてはいない。日本人でも英語版を見るとあらためて思うことだが、「トトロ」の人物たちは実に丁寧にお辞儀をする。アメリカ人の「日本人」像にぴつたりだ。アメリカ的でかつ日本的な人物たちがこうやつて出来上がる。しかし、アメリカ人たちはそのとは無意識になつてしまふからである。